

はなむけのことば



御卒業おめでとうございます。

今日までのたくさんの思い出とともに、旅立ちの時を迎える皆さんを心から祝福し、はなむけのことばを贈ります。

これからの社会は、Society5.0という、人工知能（AI）等の先端技術が産業や人間の働き方に変化を促す新しい時代を迎えると言われています。皆さんが、このような激しく変化する世の中でも主体的・創造的に思考し、たくましく生き、活躍していくことを期待しています。

昨年秋、ラグビーワールドカップが日本で初めて開催され、

「ONE TEAM（ワンチーム）」というスローガンを掲げた日本代表が、体格等で勝る強豪と言われる相手にも勇気をもって立ち向かい、史上初のベスト8進出を果たしました。このスローガンは、ジェイミー・ジョセフヘッドコーチが2016年9月に就任した際、選手と一緒に考えたスローガンです。日本代表は、一人のリーダーに頼るのではなく、攻撃・守備・規律などの各局面でリーダーの役割を分かち、複数のリーダーのもと選手一人ひとりが主体的に考えるチームづくりをしました。2大会連続で日本代表に選出されたリーチ・マイケルキャプテンは次のように語っています。

「僕らの理想は監督、コーチがいなくても選手自身が考えて勝てるチーム」

「ONE TEAM」に込められていたのは、多様なメンバーが、大きな目標に向かって個々の局面でチームのために主体的に思考し、役割を果たすことだったのだと思います。つまり、夢を実現させるためには、自分が置かれている状況を的確に捉え、深く考え、決めたことを全力で実行することが大切なのです。

皆さんは、これまでの学校生活の中でも様々な困難を経験したことと思います。その困難を、時には一人で考え抜くことで乗り越え、時には友人と協力し合って一人ひとりが役割を果たすことで乗り越えてきたのではないのでしょうか。今日、皆さんは高校を卒業することになりますが、これまでの経験を生かし、輝かしい未来に向かって、さらに力強い一歩を踏み出してください。

今後の皆さんの健康と活躍を祈って、はなむけのことばとします。

令和2年3月

神奈川県教育委員会
教育長 桐谷 次郎

卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。皆さんが、この清水ヶ丘の地で3年間学び、今日を迎えたことに、教職員を代表して心から祝意を述べさせていただきます。また、今日の卒業式にご参加することができなくなった保護者の皆さんに、祝意を述べると共に、本校の教育活動にご理解、ご支援をいただき、心から御礼を申し上げます。

今回の卒業式は、新型コロナウイルス感染症のまん延防止の関係で、卒業生のみのも式となりましたが、皆さんや、本来、ご参加いただく保護者、関係者、来賓の方々のお気持ちを察すると、校長としては遺憾でなりません。

さて、皆さんは、平成29年4月に横浜清陵高等学校第1期生として入学し、元号も改まった令和2年3月2日の今日、横浜清陵高等学校第3回生として卒業していきます。校長は、総合学科から普通科に改編される本校を、皆さんと一緒に歩んで横浜清陵高等学校の基礎を創ってきました。

人生100年時代と言われますが、私は皆さんより先に朽ちていきます。私の見る夢は、この地に50年後、100年後にも学び舎が聳え立っていることです。神奈川県は、第2次ベビーブームの高校入学期に合わせて新設校を100校建設し、最盛期には166校もの県立高校がありました。現在、子どもの数が減少し、県立高校改革により改編・統合が行われ142校になりました。近年の高校入試では、平均倍率は1.20倍を切り、定員割れを起こしている学校は少なくありません。そのようななか、本校は改編後1.3倍～1.5倍という倍率を残しています。本校の現在の人気は、あなたたちの代からスタートしたのです。皆さんは、校名も校歌も決まらず、9月まで学校案内も配布できず、教育内容も見えにくいなか、本校を選んで受検し、入学してきたのです。あなたたちのフロンティアスピリットに、校長の私は感服しているしだいです。

「横浜清陵」という伝統、ブランドを創りあげるのは、横浜清陵高等学校の第1期生として入学し、今日、卒業していく貴方たちです。皆さんが第1期生として自らの新しい道で励み、各界で活躍することが、「横浜清陵」という伝統、ブランドを創りあげていく先導者になるのです。それに後輩たちが続いて歩むことになるのです。横浜清陵高等学校に入学した1期生の皆さんの活躍が、この学校の存続にも関わっていくのだと思います。今後、県立高校の在り方が問われ、再編・統合のようなことがあっても、この地に横浜清陵高等学校の学び舎が聳えていると、私は信じています。

皆さんと過ごした3年間を振り返って、横浜清陵高等学校として更なる学校づくりに、今後も精進してまいります。卒業生の皆さん、本当にありがとうございました。

心から皆さんのご活躍を祈念しまして、最後に「私には夢があります。それは横浜清陵高校が永遠に聳え立っていることです。」というメッセージを贈り、私からの祝辞とさせていただきます。